2009年（平成21年）9月発行

お茶の水女子大学 グローバルCOEプログラム

格差センシティブな人間発達科学の創成

ニュースレター　第4号

2面 国際セミナー
3面 公募研究報告会及び採択状況／公開講演会
4面 特任教員の紹介／イベント開催予定

国際的格差領域リーダー挨拶

国際的格差領域は、国際的格差構造の解明とその是正のための教育支援のあり方を解明することを目的としています。大規模な国際共同研究としては、「幼児期における読み書き能力の獲得過程とその環境要因の影響に関する国際比較研究（日本、中国、韓国、ベトナム、モンゴル）」と「養育環境が親子のQOLと子どもの心身の健康と発達に及ぼす影響に関する国際比較研究（日本、オーストラリア、ベトナム、タイ）」を実施しています。また、幼児期における教育・保育への支援が格差緩和に結びつくとの考えに基づき、中西部アフリカを対象に幼児教育の国際協力プロジェクト（幼児教育協力のお茶大モデル）を実施し、そのインパクト評価を行なっています。いずれの活動も、国際機関や海外の大学との連携によって実施しています。これらの活動には大学院生や若手研究者が参加しており、国際的なネットワークの構築と国際的視野の涵養につながると考えています。メンバーは皆、国際経験が豊富であり、日々、精力的な教育・研究活動を展開しています。

国際的格差領域リーダー　浜野　隆

基礎問題プロジェクト

お茶の水女子大学グローバルCOEでは、「国際的格差」「教育・社会的格差」「養育環境格差」の3つの研究領域間の相互理解と連携を深めるため、「基礎問題プロジェクト」研究会を実施しています。今回は、養育環境格差領域が主催する研究会が行われました。

第3回目　養育環境格差領域

「乳児期から青年期までの子どものクオリティ・オブ・ライフ」

日　時　2009年4月12日（日）13：00～17：00
場　所　お茶の水女子大学　文教育学部第一会議室
参加者　60名

基礎問題プロジェクトの第3回研究会では、養育環境格差領域のメイン・テーマのひとつである子どものクオリティ・オブ・ライフ（Quality of Life: QOL）を取り上げ、公開セミナーを行いました。基調講演では、青山学院大学の古荘純一先生より日本の子どもたちのQOL研究に関する包括的なご報告をいただき、QOL概念についての理解を深めるとともに、日本の子どもたちのQOLをめぐる課題を提起していただきました。各研究発表では、乳児期から高校生までの各発達段階におけるQOLの問題や、国際比較研究、さらにQOLとメディア使用に関する研究など、基礎から応用に至るまで幅広い内容の報告が行なわれました。当日は、学内外から多くの方にご参加いただき、活発な議論が行われました。

国際セミナー

幼児期の言葉の発達の連続性を理解する

2009年4月30日（金）、タイバンコックのマヒドン大学医学部小児科のNichara Ruangdaraganon准教授による乳幼児期の言語発達の特徴とその障害についての講演会を開催しました。Ruangdaraganon先生は子どものQOL国際比較研究の共同研究者であり、今回調査の打ち合わせのため来日された機会に、専門分野である自閉症について講演を頂きました。先生は発達小児科学の専門家で、これまで自閉症や失語症の言語発達、健常児の言語発達の調査に長年かかわってこられました。講演会では、子どもの自閉症の特徴とタイにおける実情、課題等についてわかりやすく紹介され、乳幼児の言語発達の特徴とその障害についてご自身の経験に基づいて概説されました。20名の参加者からは、活発な議論がなされ、発達障害が日本だけではなくアジア各国でも大きな教育社会問題であることが明らかになりました。

ベトナムにおける幼児教育の格差

2009年6月1日（月）、「ベトナムにおける幼児教育の格差」を開催しました。はじめに、ハノイ国立教育大学のLe Thi Thanh Thuy准教授から、ベトナムの幼児教育における格差の現状と幼児教育へのアプローチの変化（教師中心から子ども中心への変化）、芸術表現教育・創造教育の改革を通じた格差解消の可能性に関する報告がなされました。それに続き、同じくハノイ国立教育大学のDang Hong Phuong講師から、ベトナムの幼児の身体発達の現状と保健体育教育の実際が報告されました。27名の参加者からは、子ども中心主義と格差是正との関係、幼児の身体発達や体力測定に関わる基準設定や方法論的な問題など、積極的な質疑がなされ、有益な議論が行われました。

教育評価の新たな取り組み

学校・生徒に関する調査結果を、どのように学校教育の方針や学習環境の改善に反映させるか

2009年6月9日（火）、カナダのニューブランズウィック大学・社会政策研究所所長のDouglas Willms教授をお招きし、国際セミナーを開催しました。冒頭に教育格差を測ることの重要性、幼児期から青少年期の発達段階別の総合的な評価フレームワークについて解説された後、調査結果をどのように保護者・学校の先生・教育政策にフィードバックし、データを活かしていくかといった内容を、ご自身で開発されたウェブ調査の幼児発達度を測る調査（Early Years Evaluation）、学校文化および生徒のウェルビーイングを測る調査（Tell Them From Me）の実例を通して、お話しいただきました。40名の参加者（うち学外25名）からはカナダのデータコレクションの文化、個人能力に関するデータ使用の保護、国際比較学力調査における家庭背景の測り方などについて、多くの質問、コメントが出されました。

階層線形モデル（HLM）入門ワークショップ

2009年6月11日(木)、上記Willms教授をお招きし、「階層線系モデル（HLM）入門ワークショップ」を開催しました。本ワークショップでは、OECD（経済協力開発機構）が実施している生徒の学習到達度調査（PISA: Programme for International Student Assessment）の日本のデータを用いて、マルチレベルなデータ分析に必要な統計手法の概念、入門的な統計処理のテクニックの解説を行いました。参加者（20名限定）には各自パソコンを持参いただき、実際にHLMソフトウエアを用いて、共通のデータを分析していく形態で、実践的な知識・技術を紹介しました。

REPORT 公募研究報告会及び採択状況

公募研究は、計画を審査する形で選定された研究に対して 50 万円を上限に補助金を配付する研究助成制度です。2008 年度は 34 件の応募があり、社会学・心理学・教育学の専門領域ごとに 6 つの観点から研究計画の審査を行った結果、19 件の研究を採択し、採択者には上限 50 万円（助成総額 934 万円）を交付しました。2009 年 4 月 25 日（土）には公募研究報告会を開催し、都合によりやむを得ず欠席した 1 人を除く 18 人が 1 年間の研究の成果を発表しました。1 人 10 分という短い時間配分でしたが、1 時から 5 時まで充実した内容の発表が続きました。社会学・心理学・教育学という異なる領域の多数の研究が、「格差」という視点を共有しつつ、それぞれ重要な問題について研究を積み重ねていることが確認できました。

公募研究の採択者は、研究報告会で成果を発表すると同時に、『公募研究成果論文集』または学会誌に論文を発表することが義務づけられており、2007–08 年度採択者による論文 17 篇を収めた論文集 (Proceedings 08) が 2009 年 7 月に刊行されました。2009 年度は、応募者 36 名中 19 名（助成総額 945 万円）が採択されました。

公開講演会

●暴力とジェンダー

2009 年 3 月 17 日（火）、Gilligan 夫妻講演会「暴力とジェンダー」が行われました。暴力問題の専門家である James Gilligan 氏は「セックス・暴力・ジェンダー」、Carol Gilligan 氏は「子どもの中の健康的な抵抗精神を強めるために」というテーマで、それぞれ報告されました。講演は英語で行われましたが、当日は講演原稿の和訳が配布され、討論は通訳によってすすめられました。参加者は 120 名でした。本講演会は千葉大学科研費共同研究「男女共同参画社会における男性の『社会化』と暴力性」との共催です。

●ジェンダーおよび格差是正の点から見たフランスの家族政策

2009 年 6 月 15 日（月）に開催された講演会では、フランス国立科学研究機構研究部長の Jeanne Fagnani 先生によるフランスの家族政策に関する特別講演の後、日本大学法学部教授の神尾真知子先生を討論者としてお迎えし、ジェンダーおよび格差是正の視点から家族政策を考える討論会を行いました。参加者は 83 名でした。本講演会はお茶の水女子大学 WORK-FAM Project「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」との共催です。

特任教員の紹介

本拠点では、事業推進担当者とともに、広く国内外から公募した若手教員が研究推進の中心的な役割を果たしています。特任准教授、特任講師、特任助教の他、研究と業務に従事する特任リサーチフェロー、特任アソシエートフェローがいます。今号よりこれらの特任教員をご紹介します。

特任准教授

池田　まさみ

2001年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科修了。博士（学術）。同大学大学院助手、講師を経て、2007年より現職。専門は、認知科学、科学教育、発達教育工学。視覚認知に関する実験研究の他、思考やコミュニケーションの研究に従事しています。初等・中等教育において、論理的思考力や科学リテラシーの育成に携わり、人間科学を基盤とした教授法や教材開発にも取り組んでいます。また、社会連携活動として、女子大学連携でのイノベーション研究会を主宰しています。講義は、認知心理学概論、人間科学方法論、心理統計法、グローバルCOE人間発達科学演習（大学院）などを担当。

特任講師

王　傑

中国の清華大学外国語学部を退職し、2000年に私費留学生として来日。長年、語学と教育社会学の間を行き来し、中日両国の文化や教育現場を体験してきました。研究のキーワードは教育機会の均等性、教育費負担、学生援助、キャリアガイダンス等です。単著に『中国高等教育の拡大と教育機会の変容』（東信堂2008）。教育社会学概論、グローバルCOE人間発達科学論（特）などの科目を担当しています。本年度からJELS*という小中高生および保護者調査の研究メンバーに加えてもらいました。

特任助教

垂見　裕子

専門は比較教育・教育開発・教育社会学です。国際比較学力調査、国際比較家計調査の分析を通して、学力格差の構造、養育環境格差、家庭背景の測り方の国際比較などの実証研究を行っています。現在GCOEでは、JELS*をとおして日本の小中高等学校でのデータコレクション、JICA研修「西アフリカ幼児教育研修」をとおして技術研修の実施・評価などに携わっています。2008年8月まで、米国のユニセフ本部の幼児教育課で調査・評価活動に携わっていました。

*JELS: Japan Education Longitudinal Studies

イベント開催予定

2009年度後期には、以下のプログラムを予定しています。関心をお持ちの多くの方々のご参加をお待ちしております。

第4回　東アジア“子ども学”交流プログラム「言葉の発達と脳科学～東アジアでの研究と実践」

子どもはどのように言葉を獲得し、発達していくのか。脳科学研究で、現在どこまで解明されているのか。また、社会的・文化的環境、親子のかかわりなどによって、言葉の発達はどのように影響されるのかなど。日本、中国、韓国の研究と実践を比較しながら、各国の専門家が検討していきます。

【日　時】2009年9月11日（金）
【場　所】お茶の水女子大学　理学部3号館701室
詳しい内容は下記のHPをご覧ください。
http://www2.crn.or.jp/blog/top/2009/07/4-9.html

第6回　子ども学会議「子ども・環境・脳科学」

お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」では、日本子ども学会と共催で、子ども学会議「子供・環境・脳科学」を開催いたします。本会議は、研究者、教育者、保育関係者、子育て中の親といった子どもに関心のある誰でもが参加できる学際的な場を提供し、子どもと子どもが生活する環境に関する課題を幅広く話し合うことを目指しております。

【日　時】2009年9月12日（土）・13日（日）
【場　所】お茶の水女子大学
詳しい内容はお茶の水女子大学グローバルCOEのHPをご覧ください。
http://ocha-gaps-gcoe.com/

第3回　国際シンポジウム「子どもの遊び・学びの進化と深化～文化・社会・歴史の制約を解き明かす～」

国際シンポジウムを下記のとおり開催いたします。基調講演に日本、韓国の教授をお迎えいたします。松沢哲郎教授には、世界的に有名なアイプロジェクトにおけるアイの子育てぶりについて、原ひろ子教授には、ヘアーインディアンの子ども観や子育ての原理について、韓国の李基淑教授には、子どもの成長における遊びの重要性についてお話しいただきます。進化心理学、文化人類学、幼児教育学の視点からの話題をとおして、子どもの発達における遊びの意義や学びの過程、子どもと大人による知の共同構成のプロセスについて論考を深めます。

【日　時】2009年10月17日（土）1:00 pm ～ 5:00 pm（予定）
【場　所】お茶の水女子大学共通講義棟2号館201室
【基調講演】松沢哲郎教授（京都大学）
パネリスト：原ひろ子教授（城西国際大学）
　　李基淑教授（梨花女子大学）
指定討論者：榊原洋一教授・菅原ますみ教授（お茶の水女子大学）
司会・コーディネータ：内田伸子教授（お茶の水女子大学）
詳しい内容はお茶の水女子大学グローバルCOEのHPをご覧ください。
http://ocha-gaps-gcoe.com/

編集後記

今年の上半期では主に研究会のほか、国際社会における格差問題を取り上げた数多くの国際セミナーが行われ、国内外の研究者との学術的な交流を活発に進められました。今回のニュースレター4号では様々な研究活動と国際セミナーの紹介を中心に掲載しています。

編集者　広報委員会　李　美静

発行　お茶の水女子大学　グローバルCOEプログラム
「格差センシティブな人間発達科学の創成」
〒112-8610　東京都文京区大塚2-1-1　文教1号館103
グローバルCOE事務局
Tel/Fax: 03-5978-5247
E-mail: jimu-gcoe@cc.ocha.ac.jp
URL: http://ocha-gaps-gcoe.com/